

プロバイオポニックス技術による養液栽培の農産物JAS

- 従来の養液栽培では、培養液中における化石燃料（原油、天然ガス等）で製造した化学肥料を窒素源として使用しており、化石燃料の枯渇による持続可能性に懸念。
- 植物が吸収できる窒素源として、化学肥料を使用せず、培養液中の微生物による無機化作用により、有機物を硝酸にまで分解する養液栽培（プロバイオポニックス）の新技术が開発された。
- プロバイオポニックス技術を用いて、化学肥料を低減した養液栽培によって生産される農産物について規格化することにより、次の効果が期待。
 - ① プロバイオポニックス技術を普及することで、カーボンニュートラル等の環境負荷軽減を実現する持続型の養液栽培を推進。
 - ② プロバイオポニックス技術によって環境負荷軽減に配慮した農産物であることを、エシカル消費を望む消費者にアピールできる。

規格等の内容

- 微生物群が、培地又は培養液中で活性のある状態で生息するよう管理。
- 無機養分のうち、
 - ー窒素成分は有機物（バイオマス）由来。
 - ーリン、カリウム、カルシウム、マグネシウム成分は有機物（バイオマス）、鉱物資源（りん鉱石、加里鉱石等）又は海水由来。

